



学校だより

かりがね

富士市立岩松中学校
令和7年10月学学結果号

学校教育目標 「いつでも自分から動く子」「わたしもあなたも大事にする子」「学びを楽しみ、表現する子」「つながりながら成長する子」

令和7年4月に全国学力・学習調査が実施され、結果が届きました。本号では、結果からわかる本校の成果や課題などについて考察し、これからの指導に生かしていきたいと思います。また、質問紙からわかる課題については学校だけでなく、保護者の皆様のご理解とご協力を得ながら考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

～全国学力・学習調査とは～

全国学力・学習状況調査は、小学6年生と中学3年生を対象に行われています。文部科学省や教育委員会が全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることが目的です。学校には、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることが求められています。

この調査は、「教科に関する調査」と生活習慣や学習環境に関する「質問紙調査」で構成されています。「教科に関する調査」は、知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるものという新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ基礎知識と活用力を一体的に問うように構成されています。「質問紙調査」では、学校や家庭での生活に関する項目で構成されています。

本校の調査結果と課題

全国学力学習状況調査の各教科の状況から、本校の生徒の調査結果と課題を検討しました。

【生活面】

○学校に行くことが楽しいと思っている生徒が92.2%。また、他者意識や自己肯定感について、人を助けようと思う、自分によいところがあると思うと回答している生徒が多い。また、大半の生徒が「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」と回答している。

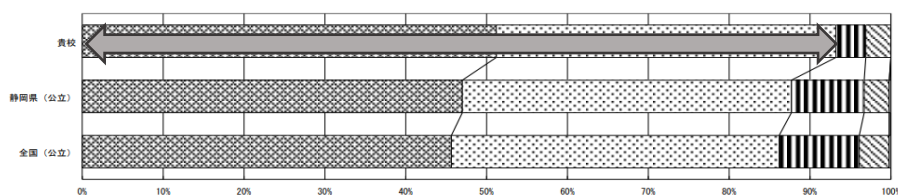
○学校での学習や生活について、友達との協働的な学びや、生活において、友達や周りの人の考えを大切にし、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると感じている(93.2%)。

●精神面について、大半の生徒は、助けを求められる大人がいると感じているが(75.3%)、そうではない生徒もいる。

～考察～

日常的な学校生活や家庭での生活について、ポジティブに捉えている生徒が多い印象です。授業のなかでも、グループでの学習において協働的に話し合う姿や、誰かが困っているとすぐに声を掛けることができる生徒が多くいます。今後も、安心して生活、学習のできる学校づくりに努めます。他方で、どの項目についても、全生徒が肯定的に捉えているわけではありません。どの生徒も「学校に行くのが楽しい」「友達と学ぶことが楽しい」と思えるよう、努めていきます。御家庭とのご協力も得ながら、生活習慣を整えることや、教師集団と子供たちの関係性を深めていく中で、安心して学校に通うことのできる環境を目指していきます。

「学校に行くのは楽しいですか」に対して 92.2%が肯定的な回答



【国語】

- 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。
- 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。
- ポスター等、文章以外の情報も含めた資料から、目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることに課題がある。
- 文章の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書くことに課題がある。
- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。

～考察～

今回の調査問題では、実用的な文章（ポスターやチラシ、書類など）やスライドを想定した資料について、資料から情報を読み取ったり、資料に凝らされた工夫に対して、自分の意見を書いたりする問題が出題されました。スライドを用いた授業を想定した問題では、日常的に ICT を活用し、自分の意見を伝える学習活動が活かされました。一方で、自分の意見を端的に文章で伝える力については、課題があります。今後も、事実や意見、根拠といった文章の要素を読み取ったり、文章に取り入れたりする授業に取り組んでいきます。

【数学】

- 静岡県、全国の平均と概ね変わらない推移である。
- 規則性のある問題を抽象的に捉え数理化することができる。
- 図形分野では、証明された事柄をもとにして、新たに分かる辺や角の関係を見い出すことができる。
- 与えられたデータから必要な代表値（情報）を整理し、抜き出すことができる。
- 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることに課題がある。
- 理想化・単純化され数理的に表現された事象に即して解釈することに課題がある。
- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。

～考察～

全国と概ね変わらない推移のため、必要な学力は定着しているようです。本校が得意としている計算分野やデータの分野では、事象から数理化する力が高められています。一方で、規則的なデータをグラフ化する力や、そのグラフからどのような事象を読み取ることができるのかと解釈することに課題があります。データの先に何が起きるのだろうかと考えることや、その事象を説明できるような力をつけるために、様々なデータに触れて、協働的な学び合いの中で表現する力を高められるような授業を実践していきます。

【理科】

- 地層を構成する粒子の大きさに注目して、水の通りやすさについて分析することができる。
- 動画から、呼吸を行う生物について適切に考えることができる。
- 収集する資料や情報の信頼性について適切に判断することができる。
- 考察をより確かなものにするために、変える条件に着目した実験を計画し、予想される結果を適切に考えることに課題がある。
- 理科で習得した知識を活用することに課題があり、知識の概念化が不十分であると考えられる。

～考察～

タブレットを用いたCBTで実施しましたが、動画から考察する問題や、情報の信頼性について考える問題についてもきちんと解答することができました。これは理科だけでなく、様々な教科で ICT を利活用した授業に取り組んでいる成果であると考えられます。今後も複数の情報を比較したり、インターネット上の情報の信頼性について考えたりする場面を、多くの教科で設定したいと思います。

観察・実験の中で、変える条件と変えない条件を明確にし、生徒が見通しをもって科学的探究をしていくことに課題があります。引き続き観察・実験を基本とした授業を行い、単なる知識の習得だけでなく、科学的概念を生徒たちが構築できるような授業を実施していきたいと思います。